

【学年】 6年	【教科・単元】国語「学級討論会をしよう」（全六時間＋二時間）
【実践内容】 ○単元目標 討論会の流れに沿って、相手の意図を聞き取ったり、自分の主張を明確に話したりできる。 ○実践の概要 ☆教材文を読んで、討論会をすることを知る。 ☆討論会の進め方を理解し、テーマを決める。 ☆グループ分け。個人の考えをまとめる。 ☆グループで話し合い、討論会の準備をすすめる。役割分担。 ☆討論会をする。まとめ。 ☆グループ分け。個人の考えをまとめる。 ☆グループで話し合い、討論会の準備をすすめる。役割分担。 ☆討論会をする。まとめ。 知的好奇心について 子どもたちが話し合いたい事例を討論会のテーマとした。このことで、言いたい、聞きたいという好奇心を学習活動につなげられると考えた。 討論会の準備では、自分の立場だけでなく、反対の立場にたって考えることで、相手からこんな質問が来るだろうと予測するようにした。（討論会シート） グループ分けでは、ほとんどの子どもたちが自分の考えている立場のグループに入ることができた。また、役割分担をはっきりさせることで、参加意識を高めさせた。（グループカード）	
【子どもの様子・反省】 普段の授業でよく発言する子どもに限らず、討論会では子どもたちが積極的に発言する姿が見られた。また、相手の質問への答えや、主張に対しての反駁では、相手の話している内容を聞き取り理解している様子であった。準備の段階では、勝利に向けてグループで役割分担や主張内容において工夫をしていた。相手からの質問を予想し、討論会でその質問が来たときには、「ほら、きた！」と、万全の態勢で答えていた。観察者としても、誰が説得力のある話し方をしていたか、誰の意見に共感できたかという視点で討論会を観察していた。 反省としては、討論会の勝ち負けにこだわる感が強かった。しかしそれだけでなく、ものの見方を広げる討論会にするという意識をもっと持たせるべきであったと考える。また、討論会のふりかえりについての時間を十分とることができなかった。	